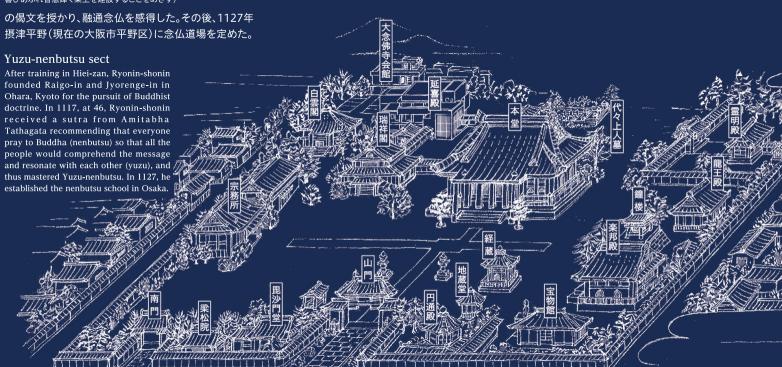
融通念佛宗について…

良忍上人が比叡山での修行を終え、さらに仏道を求めようと 京都・大原に住まい、来迎院・浄蓮華院を創建。

1117年、良忍上人が46歳の時、阿弥陀如来より

「一人一切人 一切人一人 一行一切行 一切行一行

是名他力往生 十界一念 融通念仏 億百万遍 功徳円満し

(一人の念仏が他の全ての人(一切人)に功徳を及ぼし、一切人の念仏が 一人の功徳となり、また念仏の一行をもって他の萬行に通じ、萬行をもって 一行におさまるがゆえに功徳も広大になる。皆の唱和する中に阿弥陀仏の 本願力と自己の念仏の力と一切人の念仏の力とが互いに融通して現世に 喜びあふれ智慧輝く楽土を建設することをめざす) 

大念佛寺について…

整い、現在に至る。融通念佛宗の総本山。

1127年、聖徳太子信仰の厚かった良忍上人が四天王寺に立ち寄った際、太子から夢のお告げを受け、鳥羽上皇の勅願により平野に根本道場として創建したのが始まり。平安末期以降広まった念仏信仰の先駆けとなり、国産念仏門の最初の宗派で日本最初の念仏道場といわれる。その後、火災などで荒廃するが、元禄期(1700年頃)に本山として体裁が

Dainenbutsu-ji

In 1127, when Ryonin-shonin called at Shitenno-ji, he received a revelation from Prince Shotoku, and established Dainenbutsu-ji as the fundamental school. As the pioneer of the faith in nenbutsu that spread following its beginnings in the Heian period, the temple is said to be the first nenbutsu school for Japan's first domestic nenbutsu sect. Despite suffering conflagration and other calamities in its history, Dainenbutsu-ji eventually became the head temple of the Yuzu-nenbutsu sect in the Genroku period (around 1700). The area around the temple was designated as a landscape formation by Osaka City in 2004.